



■ゆきほのか
ヒノキの曲げ輪に長岡伝統の小国和紙を張ったシェードのテーブルライト。和室洋室を問わずなじみます。約幅25.5×奥行24×高さ18cm ¥30,000
後方のスタンドライトは和室の文机や枕元などに、洋室にも違和感なく調和。テーブルライトとともに、ふるさと納税返礼品にも選定されています。約幅25.5×奥行24×高さ31.5cm ¥52,000



■花結び
細い曲げ輪を球体に組んだ花器を試作。中に置いた花入れはアクリル製。花入れの形をいろいろ試して、市販品として完成しています。球体 直径約19.5×高さ17.5cm ¥16,000



■7寸真ちゅう50目ふるい
ふるいと裏ごしの使い分けは人それぞれで、真ちゅうの他、馬毛網、絹網があります。料理人、菓子職人、そば職人、花火職人、表具師などの注文に応じて制作。直径約21×高さ7.5cm ¥5,000

■7寸馬毛裏ごし
例えば料理人はさんとう、豆腐、錦卵、真ちゅうの網ではゆで卵や枝豆、絹網ではだし汁などを漉します。馬毛や真ちゅう、絹の網の作り手が減り入手困難に。直径約22×高さ9cm ¥14,500

得。二十一年に父の他界後、家庭用とプロ用のせいろやふるい、裏ごしのほか、オリジナルな曲げ輪の生活雑貨を一手に制作。農作業や作物のとりまとめ、消防、道普請など地域の暮らしに目配りしながら制作時間をやりくり。照久さんは「私の根本はふるい屋。その技術を基本に、それ以外は各分野の専門家の補いを得て共同で新製品を開発したいと思っています」と、同世代の様々な制作者との連携に意欲的。曲げ輪を生かした生活雑貨のこれからも楽しみみです。

昭和半ばに農作業の機械化、大量生産の調理器具に押され、曲げ輪の道具の需要が落ち込みます。その後、照久さんの父、十代目の一久さんは電子レンジの普及を見越して電子レンジ対応のせいろを開発して人気商品に育てました。
長男の照久さんは平成九年大学卒業後、曲げ輪の茶道具制作まで極めた名工の父のもとで技術を習

得。二十一年に父の他界後、家庭用とプロ用のせいろやふるい、裏ごしのほか、オリジナルな曲げ輪の生活雑貨を一手に制作。農作業や作物のとりまとめ、消防、道普請など地域の暮らしに目配りしながら制作時間をやりくり。照久さんは「私の根本はふるい屋。その技術を基本に、それ以外は各分野の専門家の補いを得て共同で新製品を開発したいと思っています」と、同世代の様々な制作者との連携に意欲的。曲げ輪を生かした生活雑貨のこれからも楽しみみです。



■スツール
試作品が住宅雑誌編集者と建築関係者の目にとまり、助言を受けて商品化。張地はモケット。木工 成田祥二さんと共同制作。ふるさと納税返礼品にも選定されています。各直径約36×高さ45.5cm 各¥36,900



■電子レンジ対応せいろ(5寸)
十代目が試行錯誤の末、電子レンジの急激な温度変化に耐えられるよう従来の椀目のヒノキを板目に、釘を金属から竹釘に変え商品化。ふるさと納税返礼品にも選定されています。わっぱ本体 直径約15×高さ6cm ¥8,500

伝統をたずねて

寺泊山田の曲げ輪



インテリア スタイリスト
小山 織
こやま おり

早稲田大学文学部卒業。
雑誌編集部勤務の後、フリーランスのインテリアスタイリストとして、雑誌、広告のインテリアテーマのスタイリングや執筆を手がける。日本の伝統的な生活文化に造詣が深く、機能的で美しい伝統の逸品を現代の暮らしに生かす提案を続けている。著書に「和の雑貨」「引出物」「小山織の和の雑貨とインテリア」(以上マガジンハウス)「職人氣質をひとつ」(NHK出版)。
近著に「INSPIRED SHAPES」(講談社インターナショナル)などがある。